



「そばかす」と「ほくろ」はどうちがうの

「ほくろ」はメラニンが集まったもの

人間の体にんげん からだの皮膚ひには、少し色すこ いろがついています。これは、皮膚ひの少し中すこ なかのところに、メラニンという色素しきそ いろ（色のつぶ）があるからです。「ほくろ」は、このメラニンが集あつまってできたものです。メラニンは、ふつう、皮膚ひの中なかに平均へいきんに広ひろがっていますが、何かなにの原因げんいんで、1か所しょにかたまってしまうことがあります。それが、「ほくろ」です。

「ほくろ」には、小さなものちいから大きなものおおのまであり、中なかには、いぼでのように出でっぱっているものもありますが、「ほくろ」がなぜできるか、くわしいことはわかっていません。

「そばかす」も、ほくろおなと同じように、メラニンが集あつまってできたものです。しかし、そばかすは、大人おとなになると、消きえてしまう人ひとが多いおおようです。

おじいさんやおばあさんになると、顔かおや手てに「しみ」があつできます。これも、メラニンが集あつまってできたものです。

「ほくろ」は、いじらないこと

手てのひらや足あしの裏うらの皮膚ひには、ふつう、このメラニンの色素しきそをつくる細胞さいぼうが少すくなく、角質層かくしつそうが厚あついため、ほくろがあつできても目立めだちません。

そのため、手てのひらや足あしの裏うらにほくろがあつできると、「とったほうがいい」といわれることがあるようですが、できても心配しんぱいはありません。

とろうとしていじったりすると、かえって傷きずあとがのこ残のこったりします。

しかし、ほくろの中なかには、まれに、ほくろの「がん」になるものがあるため、注意ちゅういが必要ひつようなのです。急きゅうに大きおおくなったりした場ばあ合いには、お医い者しゃさんそうだんに相さう談だんしましょう。

（監修・保志 宏）

